

令和5年5月8日 やまだ区長記者会見

【やまだ区長】

今日はありがとうございます。まず初めに記者会見、正式な形では今日が初めてでありますので、簡単に就任挨拶をさせていただきたいと思いますので、よろしく願いいたします。

このたびの区長選挙で区民の方々の多くのご支援をいただきまして、区政運営の重責を担わせていただくことになりました。どうぞよろしく願いいたします。

この北区に生まれ育って区議会を4期、都議を2期、そして電気屋の娘であったり、介護の経験、子育ての経験、そういった経験を当事者目線で生かしながら区政運営をしっかりと担わせていただきたいと思っております。これまで公約として、「みんなで作る北区新時代」を掲げてまいりました。

この北区新時代、みんなで作るという意味は、まさに誰か一人ではなく、すべての方々が豊かさを感じられる。

そんな北区づくりを目指して掲げさせていただいております。

何より区民の方々の意見が区政に反映をされるそんな仕組みを新たにづくっていくこと。

まさにこれまで通り、現場に出て当事者の方々の活動を経験することによって、皆さんと交流する中で現場の意見をしっかりと捉えていくこと。

また、区としての考え方をしっかりと区民の方々や現場の方々に対して発信をしていくことで現場主義、そしてご意見をいただき、こちらの意見も聞いていただく。

双方向主義。この考え方をもとにした政策をつくっていきたい。そんな思いであります。

その一環といたしまして、今回の記者会見。これまで北区の記者会見は、次年度の予算編成の記者会見、年に一度のみでありました。

それをやはり区としての考え方をしっかりと定期的に発信していくという意味で定例記者会見を開催させていただく。

そんな考え方で今日開催をいたしました。

基本的には月に一回、年12回を予定しておりますが、

内容によってはその間に随時、緊急の、臨時の会見もやらせていただこうと

思っておりますので、
ぜひとも、御理解と御協力をいただけたらありがたいと思っております。

また、皆さんの声を反映させていただきながら、やはり、この、コロナを経て世界が大きく変わっていく中で、そのご意見を区政運営に反映していく。その一番は、やはり北区の職員体制、考え方。この行政改革だと思っております。その意味では、先日の初登庁の日ですね、管理職の皆さんへのご挨拶の中にも入れさせていただきましたが、やはり、どうしたら区民の皆様喜んでいただけるのか、区民の皆様の利便性がどうやったら向上していくのかということすべての職員の方々と共有をしながら、その基準のもとに政策をつくっていく。それをみんなでつくっていきなというふうに思っています。あわせて行政に時間的、それから金銭的また、関連などこういったものをゼロベースでなくさせていただいて、新たな北区をつくっていくためのスピード感と、その枠組みを皆さんにもお願いをしたところであります。

そういった意味で、行政の方々にはさまざまな試行錯誤をして、一緒にさせていただく場面が出てくるかと思いますが、しっかりと職員の方々と力を合わせて区民のための北区をつくっていく。その取り組みは進めたいと思っております。

今日の記者会見につきましては、
まず感染性、新型コロナウイルス感染症の対策本部、まあ5類の移行に伴って廃止になりました。

このことについて、主に今回は、新型コロナウイルス感染症の5類移行に伴う区への対応について、その点についてお話をさせていただきたいと思い、記者会見のご用意をさせていただいた次第です。どうぞ、よろしく願いいたします。

それでは、新型コロナウイルス感染症の5類移行に伴う北区への対応について、ご説明を簡単にさせていただきたいと思っております。

令和2年の2月7日に対策本部が設置されてから約3年3カ月に渡りまして、北区としての対策本部、その間、約92回の、オンラインも含めた会議を設けて、保健所を中心にさまざまな全庁横断的な対応をしてまいりました。この5類移行に伴いまして、昨日をもって対策本部を廃止いたしました。

一番多く、お声としていただく、お問い合わせの中にあつた、学校や幼稚園、保育園に関する感染症対策について、お問い合わせが多い、ということでフリップのほうに挙げさせて、パワーポイントの方に上げておりますが、はじめに学校・園における新型コロナウイルス感染症対策の考え方について示させていただきました。

感染症、感染状況が落ちついている時、平時においても、乳児、幼児、それから児童生徒の健康観察や換気の確保、それから手洗い等の手指衛生の指導、そういったものを継続しつつ、地域や学校において感染が流行している場合などについては、必要に応じて活用場面に応じたですね、感染症対策を一時的に検討するなど、学習内容や活動内容を工夫しながら、授業や部活動、各種行事等、学校教育活動を継続し、児童等の学びを保障していきたいと考えています。

平時から求められている感染対策について、児童等への指導を引き続き行っていきたいと思ひます。

学校生活においては、休み時間や下校時間など教職員の目が届かないところでのリスクを考えられますので、そのためにはまず、児童等が感染症を正しく理解してリスクをみずから判断した上で、それを避けるための行動を起こせるような児童等への教育、発達の段階に応じて、感染症の対策に関する指導を引き続き学校として行っていきたいと思ひます。

健康観察、換気の確保、手指衛生の指導を行い、その感染状況に応じた対策を講じて行っていく考えであります。

次に、対策について、まずマスクです。

マスクの着用は求めないことを基本としています。

マスクの着脱を強いることのないように注意をしていきたいと思ひます。

やむを得ず学校に登校できない児童に関しては、ICTを活用しながらしっかりとした学習の確保も図っていきます。

感染が不安で、休ませたいという保護者からの相談があつた場合についても、医療的ケアの必要、基礎疾患がある方など、重症化リスクが高い児童に関しては、安全に配慮した対応を、随時対応をしていきたいと考えております。

続きまして、各種保健、それから医療体制、医療支援についてのこれまでの取り組み

と、区独自として続けていくものについてのみ、赤枠をつけました。
これまでこうしてきた保健所及び、医療関係機関等による、各所保健医療支援事業については、国の対応方針に準じて終了します。

なお、区民の皆様からコロナウイルス感染症に対する不安を抱くことのないよう、相談センターを継続して開設し、相談体制を確保していきます。
これについてもホームページでしっかりと掲示をしていきます。

北区保健所の派遣職員等の応援体制も終了をいたします。医療体制については、幅広い医療機関における診療体制への移行をしていきますが、入院調整は東京都において一部継続されます。これは順次できます。

併せて入院体制。これは東京都単独では、ごめんなさい、この中には出ておりませんが、東京都単独、北区単独ではありませんが、北区内にある赤羽にあります、東京都の施設、高齢者等医療支援型施設これが赤羽にあります、コロナ感染された高齢者の方々が、その後入院をされるリハビリ施設でもあるのですが、これは東京都の施設であります、北区医師会として、北区とも協議をさせていただきながら、東京都に対しての要望書を提出されました。

これはコロナに感染した高齢者の方々が、リハビリがやはり時間がかかってしまうということで、この東京都の施設の中でリハビリをしていただくことで、区内の医療施設の圧迫を防いでいくための要望として、この施設の継続を求めています。

東京都の補正予算では、6月いっぱい補正予算の措置になっておりますが、それ以降もしっかりと東京都として続けてほしいという考え方を改めてお伝えをしておりますので、そういったことも、ごめんなさい、この中に入っておりませんが、つけ加えさせていただきたいと思っております。

検査体制については、高齢者施設等クラスター対策として区独自に実施をしてきました。従事者へのPCR検査を継続してまいります。
ワクチン接種については、令和5年春開始の接種が本日より始まりました。
北区のワクチン接種は北区医師会のご協力によって、全て医療機関での接種となっております。

また、重症化リスクの高い高齢者のワクチン接種を支援するために、これまで通り、要支援、また要介護、要支援者認定を受けている方々と

障害のお持ちの方々について、ワクチン接種会場への移動支援を継続してまいります。この事業は国庫補助 10 分の 10 活用の北区独自の事業であります。

配車取り次ぎセンター。これはタクシーの予約をしていただきまして、乗車時に介護保険証を提示していただくことで、往復無料で送迎するそういった仕組みであります。これは、災害時における緊急移送に関する協定を区内のタクシー事業者と協定を組んでおりますが、このご協力をいただいている事業者の方々に引き続き、このワクチン接種会場への移送についても継続してまいります。

また、高齢者のデジタルデバインド対策としてワクチン接種の予約支援窓口をですね。区内 8 カ所、設けてお手伝いをしてまいります。

以上で、5類移行後の北区の対応についてご説明を簡単ではありますが、ご説明させていただきました。

これまで 3 年 3 ヶ月にわたります、庁内一丸となった感染症対策は、やはりレガシーとして今後の新興感染症対策、新たな感染症対策にも生かしていく考えであります。

今後も基本的な感染症対策を講じつつ、コロナウイルスとしての、ウィズコロナとしての、さまざまな取り組みを本格的に進めて実施してまいりたいと考えております以上です。よろしくお願いいたします。

【司会】

はい。それではこれより質問をお受けしたいと思います。

御質問に際しましては職員が、お持ちいたしますマイクにてお願いいたします。

また、初めに会社名とお名前を名乗りいただいた上で、ご質問に入っていただきたく、ご協力のほど、よろしくお願いいたします。

それでは質問のある方、挙手をお願いいたします。

【質問者 産経新聞】

産経新聞、フカツと申します。学校現場での

マスクの着用についてお伺いしたいと思います。

マスクの着用を強制しないということですが、5類移行の取り組みは本日からということで、よろしいですかね。

【やまだ区長】

はい、そうです。

【質問者 産経新聞】

もう一つは、健康観察を行っていくということなのですが、基本的には、どのような内容を行っていくものなんでしょうか

【やまだ区長】

ありがとうございます。まず、1点目にマスクの着用の有無については、5月2日の時点で保護者の方々に対して、その内容について周知をはからせていただいております。あとは、各自の判断においての着用になるかと思えます。それから健康観察に関しましては、やはりご家庭で、そして生徒児童本人の体調をしっかりと体調が悪い時にはすぐに親もしくは学校の関係者の方々に知らせていく。そういった自分の体を感じていくことへの教育をしていく。そんな考え方です。

【質問者 産経新聞】

ありがとうございます。

【司会】

他に、質問のある方、お願いいたします。

【質問者 東京新聞】

東京新聞のハマサキです。よろしく申し上げます。コロナに関連した質問ではないのですが、区長に就任されて10日あまりになったということで、区長に就任されてまもないと思うのですが、感想みたいなものを聞かせていただきたい。

【やまだ区長】

そうですね。はい、とにかく忙しいな、というのが一番の感想で、まず現状、区の取り組みをしっかりと捉え直すということの作業に時間を費やさせていただいております。とにかく現場の声を聞いていくことということで、その取り組みが忙しいなっていうのが現状です。まだまだ把握しきれない部分と、これまで公約として掲げさせていただいてきた内容と、どのようにマッチングさせていくかということのやりとりも含めて、また、6月の第2回

定例会に向けての取り組みについても、各関係機関との協議も含めて急ピッチで進めていくというのが現状です。感想としてはやりがいを感じています。

【質問者 東京新聞】

今、現場の声を聞いているとおっしゃった、この現場というのは区民の方なのか、それとも区役所の各部署の方なのか…

【やまだ区長】

まずは、区役所内部ですね。

はい、もちろんこれまで通り行事があれば地域に出向かせていただいて参向していく中で、お声をいただくということが続けておりますのでそれは引き続き、あわせてやはり行政内部の今の取り組みについての確認をしていくとともにですね。これは現場の職員の方々とコミュニケーションを図る中で、直接意見を伺っていくという取り組みをこれから始めたいと。

まだ、現場に出られてはいないですけど、今は管理職。各所管のレクを受けながらですね、意見のやり取りをさせていただきます。

あわせて現場の職員の方々とかに回って意見交換をしていく。

その仕組みをつくりたいと思います。

もう一つだけ。区民の方々への意見聴取、意見を伺う機会として、今まで街角トークとって町会自治会各地域のエリアごとにお集まりをいただいたものとともにあわせてオンラインを通じた、若い方々からの意見聴取をしていくという仕組みを考えておりますので、新たなご意見をいただける仕組みをつくっていきたいと思います。これは区民の方向けです。

【質問者 東京新聞】

今、おっしゃったのはオンライン環境で若者が、区に対して意見とか質問とか、そういうのを伝える場をこれから…

【やまだ区長】

これから作っていきたいと思っています。ただ、具体的なところはこれから詰めていく段階なので、今お話しできるのはその程度です。

【質問者 東京新聞】

公約に掲げられていた、1 番目に掲げられていた行財政改革があったと思うのですけれども、まだ就任間もないですけれども、早速もう着手されているようなことというのはあるのでしょうか。

【やまだ区長】

そうですね。細かいところで行きますと、まず区長室のスケジュール管理をアナログからデジタルに変えていただきまして、

これは私、ツイッターでもつぶやきましたけれども、紙媒体だったものがもう既に 5 月 2 日かな、の時点で、オンラインで共有するその仕組みをすでに作ってもらいまして、これまでアナログでしたけども求めていけば、これだけ早く対応ができるということも、職員の方々の意欲を感じた次第ですので、やはり必要なものについては意見交換する中で、できるものは、すぐに変えて行くことが大切だなと思っています。

あとは、Twitter でも同じようにつぶやきましたが、各所管からのいろいろな事業の説明とか、やりとりが、オンラインの中で、データで送ってもらって、また区長用のフォルダを作ってもらって、そこに部ごとに上げてもらって、これに関して一切ペーパーレスでやりとりを今はしています。

この対応は非常に早かったので、やはり区役所の対応としてはすごいなって、正直思っています。

【質問者 東京新聞】

ありがとうございます。

【司会】

他、いかがでしょうか。

【質問者 建設通信新聞】

日刊建設通信新聞のグドンと申します。今日はありがとうございました。

コロナとちょっと関係ないことになってしまうのですけれども、

新庁舎を建設予定の王子駅周辺とか、複数の再開発が進んでいる赤羽駅周辺とか、いろいろ各地でまちづくりが進んでいると思うのですけれども、まちづくりの観点から、区長として力を入れていきたいというのが、もし、ありましたら、教えていただきたいという風に思いまして、よろしく申し上げます。

【やまだ区長】

まちづくり。これもずっと選挙の期間、申し上げてきたことではあるのですが、

この区内に4つの主要駅の駅周辺再開発ということは非常に今後の北区にとって大きなターニングポイントというか施策になっていると思います。

これが、どのように進められるかによって、北区の価値や方向性が変わってしまうという重要性を感じています。そういった意味でどれも全力でやらなきゃいけない。そのやらなければいけないことのいくつかを申し上げますと、まず一つは、権利者の方々のご意見を十分に伺い、それをもとにしながらも周辺に住む方々の意見をどうやってマッチングさせていくか。

その意見も街づくりの中に反映をする。その仕組みはですね。区としてやっていけるかっていうことは、エリアマネジメントの考え方も含めてですね、作っていききたいなという風に思っています。

なので、権利者を中心としたそこに住む方々の意見を集約できるような街全体で、その街をよくしていくための取り組みを区が間に入っていける分、やっていきたいという風に思っています。で、その区としての役割は、やはり、国や東京都の制度をしっかりと、区として捉えて、交渉して、使える制度を最大限活用していくこと。

そのことによって再開発の可能性を広げていきたいということを考えています。ので、区民の方々、権利者と区民の方々、それと共に、国、東京都、事業者、そういった方々との連携の強化。この2点です。

【質問者 建設通信新聞】

ありがとうございました。

【質問者 都政新報】

都政新報のキシと申します。よろしく申し上げます。

5類移行についてですけれども、一番、こう、何が区民にとって、大きく変わるか、

ということと、あと、庁内の体制としましては、その本部が無くなったり、

いろいろな軽減、今までに比べて軽減すると思うのですが、

逆にこれだけは守っていききたいとか、例えば情報発信でしたり、区長は何を大事にしていききたいというか、重要だとお考えですか。

【やまだ区長】

まず庁内のことでいけばですね。実は9波のことも少し頭に置きながら、

区有施設に関しては、パーテーションとかパネルを実はまだ残しています。

ので、感染症対策としては一定程度様子を見ながら対応していきたいというのが区役所全体としての考え方の一つになります。体制としては派遣など終了してきますが、

第9波も含めてですね、違う感染症も仮にね、

そういった想定も含めて、すぐに対応ができる体制をとっていくこと。

対策本部は廃止になりますが、それに準じた各部署の会議体をこれまでの92回の会議を持ってきた、この経験をですね。対策本部までにはならなくても、それぞれの連携をする中での会議体を必要に応じて、すぐに対策を打てるような

そんな体制を引き続き意識していきたいというのが1つ。

それから、区民の方々に対しての発信はですね、まさに今日の記者会見もそうですが、ツイッター、公式LINE、ホームページ、そういったものを駆使した発信の仕方を強化していきたいと思います。例えば、今日のこの記者会見も、それから、5類移行に関する内容についても、公式LINEですね、この会見の後ですけども、こういうふうに変更になります、ということをプッシュ型でどんどん出していく。

こんな取り組みを強化していきたいな、という風に思っています。

区民の方々に対しては、やはり不安なことが多くあろうかと思しますので、そういった相談体制がしっかりと残していくということを担保できれば、

あとはその、経済活動も含めて日常に戻っていく。

逆に、ウィズコロナの中での生活をしっかりとみんなで検討していけたらいいなということ発信していけたらいいなということ発信していきたいと思います
よろしいですか。

【質問者 都政新報】

区民にとって、一番大きく変わる点は、どこでしょうか。

【やまだ区長】

そうですね。これは区だけってことでは無いと思うのですが、検査体制とか。そういったところが少しく違いと感ぜられるところかなという風に感じています。

【質問者 都政新報】

検査体制がどういう風になる？

【やまだ区長】

今までの検査が受けられて、無料検査の部分が終了していくところは、やはり個別の対応になってきますので、その部分かな、という風に思います。

【質問者 都政新報】

はい、わかりました。

【質問者 毎日新聞】

毎日新聞のナンモです。よろしくお願いします。

さっき、話がありました。若い世代にオンラインを通じて、意見を聞くということなのですが、改めて、オンラインを活用される狙いといいますが、定義を教えてくださいいいですか。

【やまだ区長】

やはりですね、リアルよりも、自分なんかもう50代なので、リアルな方が普通ですけども、若い方々にとってはインターネットを通じたやりとりが日常だと思いますので、その感覚に合わせた意見をいただく仕組みをつくる必要が普通に考えられると思うのです。なので、若い方々から区政に対する意見をいただくためにオンラインを活用してオンラインと、リアルと、ハイブリット型でやっていきたいなって、いう風に思っています。もちろん、若い方でもリアルに参加いただけるのは大歓迎ですけども。

【質問者 毎日新聞】

希望者は会場に来られて、それをオンラインでも配信をしていて、そこを…

【やまだ区長】

そうですね。これはごめんなさい。その仕組みはこれからなので、詳細はまだ申し上げられないのですが、オンラインを活用していくことで、ご意見をいただける範囲を広げていくという考え方だけはお伝えできると思います。

【質問者 毎日新聞】

ありがとうございます。もう一つ。豊島区の高際区長もこの前の記者会見で、女性のリーダーに期待されている部分は多いと思うという感想をおっしゃってまして、やまださんからも一言、女性区長が誕生したことについて、どのような意見を選挙中に、感じていらっしゃったか、教えてくださいいただけますか。

【やまだ区長】

ひとつはその、区民の方々が、女性がリーダーになっていくことへの意識が普通になってきたということと、女性当事者、私たちを含めてですね、そういう立場を担っているのだという意識が変わってきているということ。この2つは大きくあるなという風に思っています。

女性として求められていることとすれば、男性女性、どっちとか、悪いとかじゃなくて、役割分担にその部分があると思うのですね。

例えば、出産を経験したとか、介護もやっぱり女性が多く担う分野でもあったりとか、あと普通に家計を担ってですね、買い物をしたりとか、そういった普通の生活者の視点ということがやはり女性は担う部分が多いと思うのですね。その部分を生かした区政の提案をしていきたいなということは、より生活者目線でということは、期待されているかなという風には思います。女性だからいいとか、悪いとかということではなくて、女性だから感じられる部分を発信していく、政策にして行くということは求められていると思います。

【質問者 毎日新聞】

産前産後のケアについても、強調されていらっしやいましたが、ここは私がやりますというような、今の気持ちを教えていただけますか。

【やまだ区長】

本当にこれだけ、子供に関する子ども家庭庁の設置から始まって、さまざまな制度で予算がつく中で、やはり子供施策を積極的にやっていかなければ、それはもう本当にもったいないなと思っておりますので、一番現場である、基礎自治体である北区がですね、その事業設計をしっかりと区民の方々の現状を見た中で、東京都や国に提案をしていくということがやりたいなって。それにはやはり自分も経験させていただいたこと。それからお父さん、お母さんたち。それを支える関係者、親族。逆に言えば子供を産まないと選択された方々、子どもを持たない方々にとっての視点からの子ども子育て施策ことも踏まえてですね、広く皆さんの意見をいただきながら進めていくことをやりたいと思っています。産前産後は具体的なことは多々あるのですけれども、体制としてはそういった感じです。

【質問者 毎日新聞】

ありがとうございます。

【司会】

他にいかがでしょうか

【質問者】

5類移行についてなんですけど、改めて区民の方へ呼びかけといいますか、5類移行になって、どういう風な生活を皆さんに求めるかというところで

まあ、ある程度自由な感じなのか、やっぱり慎重になってほしいとかそのあたり…

【やまだ区長】

やはりですね、感染リスクが高い方々にとっては、やはり心配な部分もちろん、おありだと思いますので、一律に、こうだ、ということはなかなか申し上げられないと思うんですけれども、それぞれの環境や、環境に合った対策をとっていただきつつ、やはりこれまでの生活に戻っていく、これまでの活動が、日常が取り戻せるようなそんな呼びかけをさせていただきたいなという風に思っております。

やはり、コロナとか感染症ということを前提にした、ウィズコロナという生活の仕方を模索していく段階なんだという風に思っていますので、十分注意をしていただきつつも、日常を取り戻していく、そんな呼びかけをさせていただきたいと思います。

【司会】

ほかによろしいでしょうか。それでは、これを持ちまして区長の記者会見を終了させていただきます。本日はお忙しい中集まりいただきましてありがとうございました。

【やまだ区長】

ありがとうございます。